

保育職ルーブリック尺度の変遷

坂本 真由美¹⁾ 笠原 正洋²⁾ 山田 朋子³⁾・吉松 遊佳⁴⁾

Consideration on Criteria of Rubric for Child Care

Mayumi Sakamoto Masahiro Kasahara Tomoko Yamada Yuka Yoshimatsu

はじめに

本稿は、本学教育学部児童幼児教育学科の保育職ルーブリックの基準内容（以下、保育職ルーブリック尺度）の改善経過について報告するものである。

保育職ルーブリック尺度とは、保育者になるための力量が大学4年間でどの程度達成されているかを学生自身が測るための基準内容が示されたものである。本学では、2015年度より、児童幼児教育学科の幼保系の4年次後期に開講される保育・教職実践演習（幼稚園）の授業内で、受講生がその保育職ルーブリック尺度を使って自身の保育者としての力量を自己評価している。

保育・教職実践演習（幼稚園）の授業は、2006年の中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」によって必修科目として大学教職課程に導入されたもので、保育者になる前に、学生が自身の力量を再確認する意義をもつ授業である。そのため、本学教育学部では、幼稚園教諭1種免許取得、保育士資格取得を目指す幼保系の学生に対し、大学4年間で達成した力量と、更に努力の必要がある力量を明確にするよう、当授業内で保育職ルーブリック尺度を使った自己評価を行っている。

保育職ルーブリック尺度の設定については、本学教育学部児童幼児教育学科の保育課程委員会で検討し、その後外部の保育士らや保育・教職実践演習（幼稚園）担当の4人の教員らで見直しをするなどして、改善を行ってきた。以下、保育職ルーブリック尺度の改善経過、すなわち変遷について報告する。

1. 保育職ルーブリック尺度：第1カテゴリーの変遷

表1は、2015年度～2020年度の保育職ルーブリック尺度における第1カテゴリーの5項目である。第1カテゴリーは、保育者になるために必要な力量として、大枠を定めたものである。

表1 保育職ルーブリック第1カテゴリーの変遷

年度	第1カテゴリー	
2015 ～ 2017	1	保育職に関する総合的な理解
	2	子どもの理解
	3	子どもの援助・指導についての知識と技能
	4	課題探求力
	5	ジェネリックスキルと対人関係能力
2018 ～ 2019	1	保育職に関する総合的な理解と実践
	2	子供の理解及び援助・指導
	3	子供の援助・指導についての理解と技能
	4	課題探求力
	5	ジェネリックスキルと対人関係能力
2020	1	保育職に関する総合的理解
	2	子供理解
	3	子供の援助・指導の知識と技能
	4	課題探求力
	5	ジェネリックスキルと対人関係能力

基本的に、第1カテゴリーの5項目の内容に大きな変化はないが、2018年度～2019年度には、学生に実践力育成をより意識させるために、項目名に「実践」「援助・指導」という表現を入れた。しかしながら、学生による保育職ルーブリックの自己評価活動において、達成感の低い学生に対し力量形成の意欲向上を図ることも重要であるため、大学4年間では保育者になるための基礎的な知識と技能という力量を確実につけることに基準を定め、2020年度の第1カテゴリーでは、「理解」「知識」という表現を使用した。

2. 保育職ルーブリックにおける第2カテゴリーの変遷

保育職ルーブリックの第2カテゴリーは、第1カテゴリーの5項目に対し、更に具体的な基準を設定したものである（以降丸数字で示す）。まず始めに、表2に2020年度の第2カテゴリーを示す。以下、そこに至るまでの変遷を報告する。

表2 2020年度の保育職ルーブリック 第2カテゴリー	
第1カテゴリー	第2カテゴリー
1 保育職に関する 総合的理解	① 保育の歴史、制度、運営に関する理解
	② 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解
	③ 全体的な計画・教育課程の理解と作成及びカリキュラムマネジメントの理解と作成
	④ 健康及び安全に関する理解と実践
	⑤ 子育て支援の理解と実践
	⑥ 人権の理解と実践
2 子供理解	⑦ 子供の発達理解
	⑧ 特別なニーズや特別支援の必要な子供の理解と援助・指導
	⑨ 乳児保育に関する理解と援助・指導
3 子供の援助・指導の 知識と技能	⑩ 養護の理解と援助・指導
	⑪ 5領域「健康」の理解と援助・指導
	⑫ 5領域「人間関係」の理解と援助・指導
	⑬ 5領域「環境」の理解と援助・指導
	⑭ 5領域「言葉」の理解と援助・指導
	⑮ 5領域「表現」の理解と援助・指導
	⑯ 記録・デイリープログラム・指導計画及び評価の理解と作成
4 課題探求力	⑰ 自己を理解し、自己課題を認識し改善する努力
	⑱ 疑問に対して絶えず問い続け批判する思考力
	⑲ 自己の保育観育成のための研究心及び研修意欲
5 ジェネリックスキルと 対人関係能力	⑳ ICT活用能力（ワード・エクセル等での文書作成・文書管理能力）
	㉑ 情報モラルの理解
	㉒ 積極的にチャレンジし、自己表現する力
	㉓ 協調性、チームとしての連携・協働する力
	㉔ 社会人としてのマナー・常識（挨拶、服装、言葉遣い）
	㉕ 管理（報連相及び確認、自己管理等）

2015年度、2016年度の保育職ルーブリックの第2カテゴリーにおいては、第1カテゴリー「1保育職に関する総合的な理解」に①保育の歴史、制度、経営に関する知識、②保育所保育指針・幼稚園教育要領の理解、③保

育課程・教育課程の理解と作成、④保育指導計画の理解と作成、⑤子育て支援の理解、第1カテゴリー「2子どもの理解」に⑥子どもの人権の理解、⑦子どもの発達の理解、⑧特別なニーズや特別支援の必要な子どもの理解、第1カテゴリー「3子どもの援助・指導についての知識と技能」に⑨5領域の理解、⑩ねらいや内容の設定及び指導計画の作成、⑪特別なニーズや特別支援の必要な子どもに対する援助・指導、⑫食育に関する理解と援助・指導、⑬子育て支援の実践、第1カテゴリー「4課題探求力」に⑭自己を理解し、自己課題を認識し改善する努力、⑮疑問に対して絶えず問い続け批判する思考力、⑯自己の保育観育成のための研究心、第1カテゴリー「5ジェネリックスキルと対人関係能力」に⑰ICT活用能力（ワード・エクセル等での文書作成、文書管理能力）、⑱情報モラルの理解、⑲積極的にチャレンジし、自己表現する力、⑳協調性、チームとしての連携・協働する力、㉑社会人としてのマナー・常識（挨拶、服装、言葉遣い）、㉒報連相、提出物の期限、持ち物管理、という計22項目の第2カテゴリーを設定した。これが最初の第2カテゴリーであった。

2017年度の保育職ルーブリックの第2カテゴリーにおいては、「保育所保育指針・幼稚園教育要領の理解」に「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を加えた。また、「保育指導計画の理解と作成」については作成に知識と技能が求められるため、第1カテゴリー「1保育職に関する総合的な理解」から「3子どもの援助・指導についての知識と技能」に移動させた。また、本学の教育の特色ともいえる「食育」について「食育に関する理解と援助・指導」の項目も加えた。また、「養護」と「教育」の一体化を鑑み、第1カテゴリーの「3子どもの援助・指導についての知識と技能」に「養護の理解と援助・指導」を追加した。その結果、第2カテゴリーは全部で24項目になった。

2018年度の保育職ルーブリックの第2カテゴリーにおいては、「保育の歴史、制度、経営に関する知識」の「経営」を、クラス運営など保育現場で行う保育に焦点化し、「運営」に変えた。また、今日保育現場で要請されている、カリキュラムマネジメントの力量育成として、「保育課程・教育課程の理解と作成」に「カリキュラムマネジメント」を加えた。また、昨今、災害が多発している状況を鑑み、危機管理の意識付けを更に促す意味で、「食育に関する理解と援助・指導」を総合的な「保健・衛生・食育・安全管理に関する理解と指導」に変えた。次に、第1カテゴリー「2子供の理解及び援助・指導」では、乳児に関わる更なる力量の育成を意図し、「乳児保育に関する理解と援助・指導」を追加した。さらに、第1カテゴリー「3子供の援助・指導についての理解と技能」の「指導計画の理解と作成」を「記録、デイリープログラム、指導計画及び評価の理解と作成」に変え、学生が保育現場に入った後も、大学で学んだ基礎知識や技能を活用し、保育計画を立て、更にはその計画の「評価」もできる力量形成を意図した。

その結果、第2カテゴリーの基準が全部で25項目となった。

2019年度の保育職ルーブリックの第2カテゴリーにおいては、「保育の歴史、制度、運営に関する知識」について大学4年間では大きく歴史と制度の基礎知識を身に付けるという意図で、「運営」を外し、「保育の歴史、制度」に変えた。また、「保健・衛生・食育・安全管理に関する理解と指導」を「食育に関する理解と援助・指導」に変え、第1カテゴリー「2子供の理解及び援助・指導」に「安全管理に関する理解と指導」を加えた。また、「子どもの人権の理解と実践」及び「子どもの発達理解の「子ども」を「乳幼児」に変えることで、「乳児」に対する理解と実践も深めることを意図した。

2020年度の保育職ルーブリックの第2カテゴリーにおいては、再度、保育を運営する力として「運営」の言葉を戻した。また、「食育に関する理解と援助・指導」については、食育を通して健康と安全を得ることができる意味で、「健康及び安全に関する理解と実践」の文言に変えた。更に、健康と安全を踏まえることで「子育て支援の理解と実践」にもつながるという意味で、その後に「子育て支援の理解と実践」を持ってきた。

第1カテゴリー「2子供の理解及び援助・指導」にあった「人権」については、子供も大人も含めて全ての人間は尊重されるべきとし、「乳幼児の人権の理解と実践」を「人権の理解と実践」に変え、第1カテゴリー「1保育職に関する総合的理解に上げた。また、第1カテゴリー「4課題探求力」の第2カテゴリー「自己の保育観育成のための研究心」に、大学卒業後も保育者として研究し続ける力の育成を意図し「研修意欲」を加えた。また、「報連相、提出物の期限、持ち物管理」は簡潔に「管理（報連相及び確認、自己管理等）」に変えた。

3. 保育職ルーブリック尺度2020

保育職ルーブリックでは、まず学生が単純に自身の力量の達成度がどの位置にあるか自己評価できるよう、力量の尺度を「S卓越：専門職として保育現場に出て実践できるレベルに達している」、「A優秀：専門職として現場に出るレベルに達している」、「B標準：保育士資格・幼稚園教諭免許所持者として標準的な技能や態度を実践できるレベルに達している」、「C2基礎：実習で通用するレベル」、「C1初歩：保育を学んだ学生としての基本修得レベル」に設定している。保育職ルーブリック尺度は、各レベルの達成基準を示した文章である。尺度の文章についても、基本的に保育職ルーブリックの第1カテゴリー及び第2カテゴリーの変遷に合わせて、保育課程委員会、外部の保育士らとともに検討を重ねた。表3（次頁）の保育職ルーブリック2020は、2020年度現在の尺度の文章内容で、外部の保育士ら及び保育・教職実践演習（幼稚園）担当教員が検討を重ねた後に、保育職ルーブリック2019に改善を加えたものである。特に、第1カテゴリー「1保育職

に関する総合的理解」のSレベルでは、リーダーを育成する文言を入れた。また、同じく第1カテゴリー「1保育職に関する総合的理解」の第2カテゴリー「⑥人権の理解と実践」の尺度では、乳幼児の人権だけでなく、全ての人間に対する人権を尊重できる保育者育成を目指す文言を入れた。第1カテゴリーの「2子供理解」においても、Sレベルの達成に、リーダーとしての役割と責任を育成する文言を入れた。2019年度までの保育職ルーブリックによる自己評価において、学生達はPDCAサイクルを活用した自己の達成計画を実行し、Bレベルに達成した学生が増加したことから、2020年度の保育職ルーブリックでは、更なる学生の達成度の向上を期待し、保育現場に出ても、リーダーとしての役割を担うことができる力量の育成を、今年度は意識していく予定である。

4. 今後の課題

以上、2015年度からの保育職ルーブリックの第1カテゴリー及び第2カテゴリーの基準設定の検討過程ならびに2019年度の保育職ルーブリック尺度を改善した2020年度時点で使用している保育職ルーブリック尺度の文章内容について報告した。今後は、保育課程委員会内でさらに保育職ルーブリック尺度の検討が必要であるとともに、幼稚園教諭や幼保連携型認定こども園の保育教諭らとも、保育職ルーブリック尺度について検討を重ねていかねばならない。その取り組みと並んで、学生達の保育職ルーブリックを使った自己評価の結果分析及び各科目における達成目標が保育職ルーブリックにいかに関与し連携しているのかを考察するのも、今後の重要な取り組みとして捉えている。

参考文献

- ・坂本真由美・笠原正洋・山田朋子・吉松遊佳（2018）「教職の学修の現状と課題に関する一考察—幼保系ルーブリックによる学生の自己評価から—」中村学園教職教育研究第2号。
- ・吉松遊佳・笠原正洋・坂本真由美・松藤光生（2019）「PDCAサイクルを用いた保育職ルーブリックの自己評価の実態と課題」中村学園教職教育研究第3号。
- ・坂本真由美・野中千都・笠原正洋・吉川寿美・倉原弘子・那須信樹・松垣淳子・古相正美・松藤光生・山田朋子・吉松遊佳・浦恭子（2020）「「自ら学び続ける力」を備えた保育者養成課程の開発的研究（2）—外部評価による保育職ルーブリック基準の見直し—」中村学園教職教育研究第4号。
- ・吉松遊佳・野中千都・笠原正洋・吉川寿美・倉原弘子・坂本真由美・那須信樹・松垣淳子・古相正美・松藤光生・山田朋子・浦恭子（2020）「「自ら学び続ける力」を備えた保育者養成課程の開発的研究（3）—保育職ルーブリックを活用した科目の到達目標と学生の学びの実態—」中村学園教職教育研究第4号。

付記

本研究の一部は、2018年3月8日第2回中村学園教職教育研究会、2019年3月13日第3回中村学園教職教育研究会、2020年3月12日第4回中村学園教職教育研究会において口頭発表した。

表3 保育職ルーブリック2020

力量尺度		S	A	B	C2	C1
I 保育職に関する総合的理解	①	保育の歴史、保育の制度、保育の運営に関して、研修等で得た知識や自立的な学びを、常に保育実践へ還元し園運営を十全に展開することができる。	保育の歴史、保育の制度、保育の運営に関して、養成校や研修で得た基本的知識を基に、保育実践にいかすことができる。また何をさらに学ぶべきかを自立的に探究することができる。	保育の歴史、保育の制度、保育の運営に関する内容について、単位修得した科目で得た基本的な知識を修得しており、簡単に説明できる。	保育の歴史、保育の制度、保育の運営に関する基本的内容を理解し、保育者として必要な人間性・知識・専門性を学修する意義を理解している。	保育の歴史、保育の制度、保育の運営に関する基本的内容を理解している。
	②	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について深く理解しており、園の保育方針と自分が実践している保育とを関連させて思考と説明ができる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について理解しており、自分が実践している保育と関連させて思考と説明ができる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得しており、自分の保育観と関連させて説明できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得し、さらに大学の授業や実習で何を学び深めていくべきか理解している。	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基本的内容について理解している。
	③	保育行政の趨勢、園の方針と園の乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画（教育課程を含む）を作成・改善するなど、カリキュラムマネジメントをリーダーとして実践できる。	園の方針と園の乳幼児の実態に合わせて全体的な計画を作成・改善するなど、保育を実践するためのカリキュラムマネジメントを理解し実践できる。	全体的な計画を作成するための基本的な知識を修得しており、全体的な計画に合わせて自分の保育を計画・実践・反省することができると同時に、全体的な計画の諸計画の連関を理解できる。	園の全体的な計画について理解することができ、それらに合わせて自分の保育を計画・実践し見直すことができる。	全体的な計画（教育課程を含む）について基本的な知識とPDCAサイクル及びカリキュラムマネジメントについて理解している。
	④	リーダーとして、保育行政や園の方針に合わせた保健・衛生・食育・安全管理の計画を立てることができ、個々の乳幼児に配慮した臨機応変な援助と指導ができ、家庭と連携して保育を工夫・展開することができる。	保健・衛生・食育・安全管理について修得した知識を総合して、園の方針に合わせた計画を立て、個々の乳幼児に配慮した臨機応変な援助と指導ができる。	保健・衛生・食育・安全管理について基本的な知識を修得し、園の方針に合わせて、個々の乳幼児に配慮した援助と指導の工夫ができる。	保健・衛生・食育・安全管理について基本的な知識をもとに、園の方針に合わせて個々の乳幼児に配慮した援助と指導ができる。	保健・衛生・食育・安全管理についての基本的な知識を理解している。
	⑤	園の子育て支援方針を理解し、園の保育者と協働し、園の保護者及び地域と連携をとりながらリーダーとして子育て支援に取り組むことができる。	子育て支援の意義と基礎知識を修得しており、保育者として子育て支援で実践すべきことを理解し、保護者との関わりを積極的に行うことができる。	個別の支援（障害、特別な配慮を必要とする家庭、不適切な養育等）に関する専門的知識を理解し、基本的な支援技術を実践できる。	子育て支援の種類、保護者の状況に配慮した個別の支援の基本について理解し、園の子育て支援の方針を理解できる。	子育て支援の目的や内容、基本的事項について理解している。

力量尺度		S	A	B	C2	C1
	⑥	全ての人間の人権を尊重し、全ての乳幼児に公平かつ受容的な態度で接することができ、個と集団の関係に目を向けながら、一人ひとりの乳幼児が人間として自己成長ができる計画を立て、乳幼児と保護者にかかわることができる。	全ての人間の人権を尊重し、個と全体の乳幼児に公平かつ受容的な態度で接することができ、一人ひとりの乳幼児が人間として自己成長ができるよう計画を立て、個と集団との関係で援助・指導ができる。	全ての人間の人権を尊重し、個と全体の乳幼児に対しても公平かつ受容的な態度で接することができ、一人ひとりの乳幼児の自己成長のためのかかわりについて工夫し、援助・指導ができる。	全ての人間の人権を尊重し、個と全体の乳幼児に対しても公平かつ受容的な態度で接することができ、一人ひとりの乳幼児が人間として自己成長ができるよう関わるができる。	全ての人間の人権を尊重し、乳幼児に対しても、公平かつ受容的な態度で接することができ、一人ひとりの乳幼児が人間としての自己成長ができることの大切さを理解出来る。
2 子供理解	⑦	乳幼児の発達について幅広く深く理解し、人間形成の側面から乳幼児一人ひとりに対し、発達を促す魅力的で効果的な援助・指導を展開できる。	乳幼児の発達について知識を修得し、行動の予測ができ、園の個々の子どもの特性や状況に応じて、望ましい発達を促す具体的な援助・指導の計画を立て、実践できる。	乳幼児の発達について知識を修得し、個々の子どもの行動予測に基づき、個々の子どもの特性や状況に応じて、望ましい発達を促す援助・指導ができる。	乳幼児の発達について基本的な知識をもち、乳幼児とかかわりながら、一人ひとりの子どもの望ましい発達を促すための援助・指導を考えかかわることができる。	乳幼児の発達について基本的な知識を理解している。
	⑧	特別なニーズを持つ乳幼児に配慮し、発達と成長について専門的な観察に基づき、個別支援計画を立案・実施・評価・改善でき、リーダーとして保育者・保護者・関係機関と連携しながら個別の支援を実践できる。	特別なニーズを持つ乳幼児に配慮し、発達と成長について観察と個別支援計画立案、保育の実施、評価と見直しを行い、保育者・保護者・関係機関と連携しながら、個別の支援を実践できる。	特別なニーズを持つ乳幼児について理解し、個別支援計画に基づいて一人一人の発達と成長に配慮でき、援助と指導ができる。	特別なニーズを持つ乳幼児の心情や状態について、個と集団の関係から理解し関わるができる。	特別なニーズを持つ乳幼児の理解・支援と指導に関する知識を理解している。
	⑨	乳児一人一人の発育及び発達を理解し、生理的欲求を満たし、応答的な関わりを通して乳児と信頼関係を築くことができ、リーダーとして職員間や医療機関との連携を図りながら、保護者からの相談にのり支援ができる。	乳児一人一人の発育及び発達を理解し、生理的欲求を満たし、応答的な関わりができ、保護者及び職員間や医療機関との連携を図り、健康及び安全を配慮した保育環境を維持できる。	乳児一人一人の発育及び発達を理解し、生理的欲求を満たし、応答的な関わりができ、保護者と職員間と報告・連絡・相談を図りながら健康及び安全の配慮をすることができる。	乳児一人一人の発育及び発達の理解・生理的欲求を満たすこと・応答的な関わりの意義を理解し、職員間との連携を図りながら健康及び安全の配慮をする意義を理解している。	乳児一人一人の発育及び発達と関わり方について理解しようと努力している。

力量尺度		S	A	B	C2	C1
3 子供の援助・指導の知識と技能	⑩	生命を保持するための健康・安全・保健・衛生等知識・技能を修得し、保健的で安全な環境の維持と向上に努め、子供が自発性や自己肯定感を持てるよう適切な保育計画と環境構成を設定ができる。	生命を保持するための健康・安全・保健・衛生等にかかわる知識・技能を修得し、生活リズムの安定した環境構成設定及び保育計画を立て、乳幼児の情緒の安定を図りながら臨機応変に援助・指導ができる。	生命を保持するための健康・安全・保健・衛生等にかかわる知識・技能を修得し、乳幼児の情緒の安定を図りながら、臨機応変に乳幼児の援助・指導ができる。	生命を保持するための健康・安全・保健・衛生等にかかわる基本的な内容・技能を理解し、乳幼児の情緒の安定を配慮しながら援助・指導の工夫ができる。	生命を保持するための健康・安全・保健・衛生等にかかわる乳幼児の援助・指導及び乳幼児の情緒の安定について基本的な内容を理解しようとしている。
	⑪ ⑮	各5領域のねらいと内容を設定し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせ、的確に配慮しながら援助・指導ができ、乳幼児の主体性を伸ばし、ねらいを達成するための効果的な展開ができる。	各5領域に関するねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせて保育指導計画を立て、乳幼児の主体性を伸ばすための臨機応変な展開ができる。	各5領域に関するねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせて援助・指導の工夫ができる。	各5領域に関するねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせて援助・指導ができる。	各5領域に関する援助・指導の基本的な知識について理解している。
	⑯	園で起こる様々な事象についての的確に観察・考察した記録を取ることができ、個々の乳幼児の発達を見通して、効果的に援助・指導できるデイリープログラム・保育指導計画(年・期・月・週・日・時)を作成・評価を行い保育運営ができる。	園で起こる様々な事象について観察・考察した記録を取り、それらについて説明できるとともに、乳幼児の発達を見通してデイリープログラム・保育指導計画(週・日・時)を立て、職員や保護者と連携し自分で省察及び評価することができる。	単位修得した科目で得た知識をもとに、保育現場で起こる様々な事象について観察・考察した記録を取ることができ、園の方針に合わせてデイリープログラム・保育指導計画(日・時)を立て実践をし、自分で省察し評価をすることができる。	大学の授業で得た知識をもとに、園で起こる様々な事象について観察記録及び考察ができ、園の方針と乳幼児の実態に合わせてデイリープログラム・保育指導計画(日・時)を立て、指導を受けながら評価をすることができる。	保育の記録の仕方・デイリープログラム・保育指導計画の意義と立て方、記録と計画の評価の意義について基本的な知識を理解している。
4 課題探求力	⑰	保育者として健康な心身の状態を保つための考えや方法を持ち、自己理解と自己課題を認識することができる。	保育者として健康な心身の状態を保つための考えや方法を持ち、自己の能力を最大限に発揮することができる。	保育者として健康な心身の状態を保つための生活リズムを確立し、安定した自己管理ができる。	保育者として健康な心身の状態を保つことの重要性を理解し、自己の能力を最大限に発揮できるための生活管理・自己管理ができる。	保育者として健康な心身の状態を保つことを意識し、生活リズムに気を付けて授業の出席や遅刻のないよう努力している。
	⑱	自己課題について、他者の批判も受け入れ、協働からの学びや研修からの学びを積極的に生かし、自己の人間性と専門性の向上を絶えず図っている。	何が自分の課題かを認識し、その課題改善に向けて、努力すべきことを的確に実践できる。	大学で得た保育に関する知識と現代における保育の問題について関連付けて考察し、自分の意見を言える。	実習で自分の課題を発見し、何を問い続け克服するのか大学での授業に繋げることができる。また、疑問点について批判的考察ができる。	現代の保育に関する情報や問題に関して基本的な知識を得る努力をし、疑問点について批判的に考察できるよう努力している。

力量尺度		S	A	B	C2	C1
4	課題探求力	⑲ 自らも意欲的に研修に参加し、「学び続ける保育者」を体現しつつ、保育の場で生じる様々な問題を的確に解決するための研修計画を立案できる。	現代の保育に関する問題について基本知識を持ち、課題解決を図るための情報を取り入れ、自らのスキルアップのための研修意欲がある。	乳幼児と保育について探究心をもち、テーマを決めて研究をすることができ、研修の意義を理解している。	乳幼児や保育について研究したいテーマがある。	現代の保育に関する情報や問題に関して基本的な知識を得る努力をし、疑問点について批判的に考察できるよう努力している。
5 ジェネリックスキルと対人関係能力	⑳	ICT（Word, Excel, Power Point, 映像メディア等）を使って、効率よく文書・表作成や文書管理を行い、園での職務を遂行できる。	ICT（Word, Excel, Power Point, 映像メディア等）を使って園の職務において様々な文書・表作成や文書管理ができる。	ICT（Word, Excel, Power Point, 映像メディア等）を使って文書・表作成や文書管理ができる（保育指導計画等を作成できる）。	ICT(Word, Excel, Power Point) で文書・表作成や文書管理ができる。	ICT(Word, Excel, Power Point) でレポート作成や論文作成ができる。
	㉑	情報モラルを逸脱せず職務遂行できる。	情報モラルを理解して園務ができる。	何が情報モラルを逸脱しているかいないか理解している。	情報モラルを理解した上で、実習での園務ができる。	情報モラルの基本を理解している。
	㉒	何事にも積極的にチャレンジし、自己表現ができる。	何事にも積極的にチャレンジする精神をもち、自己を表現することに喜びを持ち続けようとする意欲がある。	何事にもチャレンジし、自己を表現することに自信を持つよう心掛けている	模擬保育や設定保育について指導計画案を立て人前で発表することができる。	大勢の前で自分の考えを工夫して伝えることができる。
	㉓	園の教職員とチームとして園の方針に合わせて協働でき、お互いに学び合い助け合う組織作りを行うことができる。	チームとして園の教職員と主体的に協働することができる。	実習で園の教職員や同僚とチームとして協働することができる。	様々な協働の体験を積み、園の教職員とチームとして協働することの意義を理解している。	クラスメイトや仲間、サークルなど色々な人・場面で協働することができる。
	㉔	保育者として園・保護者・地域から信頼できる態度と行動ができる。	保育者として信頼できる常識・マナーを自覚し実行できる。	社会人として信頼できる常識・マナー（挨拶・服装・言葉遣い等）を自覚し、実行できる。	社会人としての常識・マナー（挨拶・服装・言葉遣い等）を理解し、意識して行動している。	社会人としての常識・マナー（挨拶・服装・言葉遣い等）を自覚し実行できるよう心掛けている。
	㉕	リーダーとして、全ての保育者の役割を理解した上で報連相、提出物期限、持ち物管理等、信頼できる保育者として責任をもって職務遂行ができる。	役割を理解した上で報連相とその確認、提出物期限、持ち物管理等、園や保護者から信頼される保育者として行動できる。	役割を理解した上で報連相とその確認、提出物の期限、持ち物管理等、保育者として責任ある行動ができる。	報連相とその確認、提出物の期限、持ち物管理等、責任をもって行動できる。	報連相とその確認、提出物の期限、持ち物管理等、意識して行動している。